

2 0 2 2年度

事業報告書
計算書類等



一般財団法人関西観光本部

2022年度 事業報告書

自 2022年 4月 1日

至 2023年 3月31日

一般財団法人関西観光本部

目次

1.	日本屈指の広域観光圏 “KANSAI”を世界に発信	5
1)	関西インバウンド観光サイト”The KANSAI Guide”の充実強化.....	5
2)	VISIT JAPAN Travel & MICE Mart 2022 への出展	6
3)	ツーリズム EXPO ジャパン 2022 にて広域観光ルート”THE EXCITING KANSAI”を訴求	6
4)	台湾大商談会	6
5)	招請事業（ファムトリップ）	7
①	スペインの有力旅行会社ファムトリップ（奈良県、奈良ビジターズビューロー連携）	7
②	イタリア市場向けランドオペレーターファムトリップ（福井県連携）	7
③	ドイツ旅行社&スイスメディア対象ファムトリップ（びわこビジターズビューロー、姫路観光コンベンションビューロー等連携）	8
④	スペイン人インフルエンサーファムトリップ（奈良県、和歌山県、近鉄グループ連携）	8
⑤	フランス市場向け旅行会社ファムトリップ（ひょうご観光本部連携）	8
⑥	在 UAE 日本人インフルエンサーファムトリップ（京都府連携）	9
⑦	マイクロネシアメディアファムトリップ（ユナイテッド航空等連携）	9
⑧	イタリア人インフルエンサーファムトリップ（京都府観光連盟、京阪ホールディングス等連携）	9
⑨	高額消費者層に特化した旅行会社ファムトリップ（福井県、奈良県、近畿日本鉄道連携）	10
6)	旅行会社向けセミナー及び現地セールスコール事業（観光庁補助事業）	10
①	イギリス・フランス市場向け	10
②	台湾市場向け	11
③	タイ市場向け	11
7)	外国人留学生による「KANSAI ファン・モニターツアー」を琵琶湖・淡路島で実施	11
8)	米国市場旅行博「Los Angeles Travel & Adventure Show（LATAS）2023」出展	12
9)	台湾新光三越における関西プロモーション	12
10)	台湾インフルエンサー向けセミナー	12
11)	様々な機会を通じた関西広域観光 8K 動画の上映等	13
①	機内でのオンライン特別文化体験動画（京都篇）の上映等	13
②	国内外の家電量販店 TV 売場にて当本部 8K 動画を上映	13
12)	関西国際空港における訪日観光本格再開ウェルカム・イベント開催	13
2.	地域を磨く・つなぐ	14
1)	広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」の推進	14
①	新たに5つの「広域観光ルート旅行商品」を造成し販売開始	16
2)	関西広域観光デジタルマップの構築	16
3)	「第7回 UNWTO ガストロノミーツーリズム 世界フォーラム」にて広域観光圏”KANSAI”を紹介	17
4)	西日本の広域連携 DMO 間の連携協力の枠組み作りに着手	17
3.	新たな魅力を創る	18
1)	”KANSAI”食のツーリズム化促進事業	18
2)	大阪湾海上周遊ルートのツーリズム化	18
3)	サステナブル・ツーリズム調査・戦略策定事業	19
4)	御食国事業	19

5)	酒蔵ツーリズム	19
4.	観光のパラダイムシフトへの対応と観光インフラの強化	21
1)	“The KANSAI Guide”を活用した“マーケティングダッシュボード”の開発・運用	21
2)	文化観光の促進のための基盤づくり（関西広域連合との連携事業）	21
①	関西文化の情報を一元的に扱うポータルサイトの作成	21
②	文化施設をめぐるデジタル・ミュージアムパスの制作	21
3)	通訳案内士のスキルアップ事業の実施	22
4)	ホテルコンシェルジュのネットワーク強化	23
5.	事業推進のための基盤整備	24
1)	「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」の推進	24
2)	インバウンド情報誌「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE」発刊	24
3)	関西インバウンド交流会 2023	24
4)	会員への情報発信	25
5)	大阪・関西万博に向けた関西アクションプラン（近畿運輸局、近畿地方整備局との連携）	26
6)	マスターカードとの連携協定締結	26
7)	“KANSAI ONE PASS”の運営	26
8)	EXPO2025 関西観光推進協議会の発足	27
6.	各種事業	28
1)	子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業「関西キッズ伝統文化プログラム 2022」	28
2)	第 20 回 関西文化の日（関西広域連合・関西元気文化圏推進協議会との共催）	28
3)	関西元気文化圏賞	29
4)	日本政府観光局現地職員対象としたオンラインセミナー	29
7.	管理運営活動（理事会・評議員会・運営会議）	30
1)	理事会	30
2)	評議員会	30
3)	運営会議	30
8.	会員・構成団体・オブザーバー関係（2023 年 3 月 31 日現在）	31
1)	会員	31
2)	構成団体	31
3)	オブザーバー	31

はじめに

新型コロナウイルス感染症が世界的に収束傾向にある中、我が国では、2022 年 6 月から観光目的の入国受入れ再開や段階的な水際措置の緩和がなされた。本格的な受け入れ再開を行った 10 月以降は、インバウンドの顕著な回復傾向が見られた。日本政府観光局（JNTO）が発表した 2022 年の訪日外国人旅行者数は 383 万 1,900 人であり、コロナ以前の 2019 年比では 88.0%減ではあるものの、前年の 24 万 5,900 万人からは大幅に増加した。国連世界観光機関（UNWTO）によると、2022 年の国際観光客到着数は前年の約 2 倍の 9 億人を超えたが、コロナ以前の水準の 63%に留まっている。同機関によるポジティブ・シナリオでは、2023 年の国際観光客到着数は、景気減速の程度、アジア・太平洋地域での旅行の回復の持続などに依拠するものの、コロナ以前の水準の 80%から 90%に達する可能性があると予測している。

関西観光本部（以下「当本部」）は、2022 年 3 月にとりまとめた「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」（以下、「グランドデザイン」）に基づき、①広域観光圏“KANSAI”を世界に発信、②地域を磨く・つなぐ、③新たな魅力を創る、④観光のパラダイムシフトへの対応と観光インフラの強化、という 4 つのアクションプランを活動の柱として事業を推進しているところであるが、2022 年度においては、コロナ情勢を見極めながら、適時、見直し等を行いながら、柔軟な事業実施に努めた。

「広域観光圏“KANSAI”を世界に発信」する取り組みでは、当本部のインバウンド向け情報発信サイトである“The KANSAI Guide”や SNS を活用したデジタルでの情報発信を強化するほか、10 月の水際対策緩和を踏まえ、プロモーション活動を再開し、欧米等から有力ランドオペレータや海外メディアを招いたファムトリップを積極的に受け入れた。また、9 月にツーリズム EXPO ジャパン 2022（東京）、10 月から 11 月の台湾三越と連携した台湾での関西フェア、2 月の米国旅行博（LATAS）へ出展したほか、3 月には台湾大商談会を 3 年ぶりに現地で開催した。

「地域を磨く・つなぐ」取り組みでは、「伊勢～奈良」、「福井～琵琶湖東岸～伊賀」の 2 ルートの商品造成を行い、広域観光 8 ルートの骨格が概成した。また、ルートを跨ぐ「徳島～加太」、「若狭～京丹波」、「三重～滋賀」の 3 コースを造成し、ルートの深化を進めた。更に、西日本の拠点としての地位を確立すべく、「四国・山陰・せとうち」の 3 つの広域連携 DMO とのマルチ連携の枠組み作りにも着手した。

「新たな魅力を創る」取り組みでは、“KANSAI”の食のツーリズム化促進のための戦略調査を行った。また、近畿運輸局等と連携し、大阪湾の海上周遊 4 ルート造成を支援している。加えて、世界的なトレンドとなっているサステナブル・ツーリズムを推進するため、2 府 8 県におけるコンテンツ調査を踏まえた戦略策定を実施した。

「観光のパラダイムシフトへの対応と観光インフラの強化」では、プロモーション等の事業効果の可視化のため、“The KANSAI Guide”へのアクセスの分析等によるマーケティングダッシュボードを開発し、実装した。また、関西の文化関連情報サイトを“The KANSAI Guide”に統合するなど、情報発信インフラの強化を行った。観光人材については、通訳案内士向けファムトリップなどに取り組んだ。

この他、組織基盤・ネットワーク強化に向け、コロナ情報、活動報告、各種データ等を構成団体・会員に積極的に配信するとともに、会員相互の交流を促進するため、関西インバウンド交流会を開催した。また、いずれも 20 回を迎えた関西文化の日や関西元気文化圏賞等のイベントも実施した。

また、2025 年の大阪・関西万博に向け、万博の機運醸成とともに「万博会場から地域へ」を旗印とする「万博プラス関西観光推進事業」を企画し、その推進体制として「EXPO2025 関西観光推進協議会」（2 府 8 県 4 政令市、関経連、関西広域連合、民間事業者・団体等で構成）を 3 月に設立した。これにより次年度以降の活動基盤が抜本的に強化された。

本事業報告書は、2022 年度に当本部が行ったこれらの取り組みについて報告するものである。

1. 日本屈指の広域観光圏 “KANSAI”を世界に発信

1) 関西インバウンド観光サイト“The KANSAI Guide”の充実強化

2022年度は、2025年大阪・関西万博に向けて2021年12月に全面リニューアルオープンした関西インバウンド観光サイト“The KANSAI Guide”のサイト訪問者数およびページ閲覧数の増のための施策に重点的に取り組んだ。具体的には、SEO対策※強化、日本政府観光局（以下、JNTO）による広域連携DMO支援事業の活用などを実施したことにより、その効果が顕著に表れた。

※ Search Engine Optimization 対策：Google等の検索エンジンの検索上位にサイトが表示されるようサイト内容を最適化すること

また、当本部が運営するSNSメディアに関しては、昨年10月からの水際緩和以降の積極的な情報発信が奏功し、フォロワー数（Facebook 20,460人、Instagram 2,750人）が順調に拡大している。

2018年度から実施している「訪関西意向率調査」の2022年度の結果によると、戦略ターゲットである欧米豪訪日検討層の「関西」認知率は50.4%から63.1%、来訪意向率は34.1%から40.6%といずれも上昇した。なかでも来訪意向率の2018年度から2022年度の伸長率は、関西が14.9%増と全国トップとなった。こうした中で、世界中の海外旅行検討層を同サイトへ誘引し、関西の認知と来訪意向を高めていく。

【全面リニューアルの内容】

- ・SEO対策が効果的に機能するサーバーへの移転
- ・汎用ドメイン「.jp」から国際ドメイン「.com」に変更
- ・見やすく、使いやすいサイトへ、サイトデザインの変更

【2022年度実績】

サイト訪問者数（UU数）	817,544	（2021年度対比 126.2%）
内オーガニック検索流入数	324,003	（2021年度対比 365.1%）
ページ閲覧数（PV数）	1,663,129	（2021年度対比 156.1%）



関西インバウンド観光サイト“The KANSAI Guide”トップページ

KANSAI Blogs



2) VISIT JAPAN Travel & MICE Mart 2022 への出展

2022年9月22日～24日の3日間、東京ビッグサイトで開催された「VISIT JAPAN Travel & MICE Mart 2022」(以下、VJTM2022)に出展した。

VJTM2022は、JNTOが主催し、観光庁が定めるビジットジャパン重点・準重点33カ国・地域の訪日旅行取扱旅行会社と日本のインバウンド関連事業者・団体とが参加する国内最大のインバウンド商談会であり、今年はオンライン商談に加え、3年ぶりにリアル商談も組み合わせた形で実施された。日本政府より水際制限の大幅緩和が発表される中、当本部は欧米豪や東・東南アジアの旅行会社に対し、広域観光ルート”THE EXCITING KANSAI”のコアエリアと8つのルートや10府県で造成した特別文化体験の紹介とともに、2025大阪・関西万博を紹介するなど、ディスティネーションとしての”KANSAI”の訴求に努めた。



VJTM リアル商談の様子



VJTM 会場の様子



VJTM 会場の様子

3) ツーリズム EXPO ジャパン 2022 にて広域観光ルート”THE EXCITING KANSAI”を訴求

関西ブロック広域観光振興事業推進協議会と協働し、2022年9月22日～25日までの4日間、東京ビッグサイトで開催された「ツーリズム EXPO ジャパン 2022」にて”THE EXCITING KANSAI”ブースを出展した。また、9月24・25日の一般日には、構成府県ブースを巡る「KANSAI デジタルスタンプラリー」を実施し、約1,800名の方にご参加いただいた。また、ブース内には、構成府県市のポスターやパンフレットを掲示・配布するとともに、2025年大阪・関西万博のPRや動画の配信を行った。



”THE EXCITING KANSAI”ブース



”THE EXCITING KANSAI”ブース

4) 台湾大商談会

第9回となる台湾大商談会を2023年3月6日～7日の日程で3年ぶりに現地にて開催した。今回は、高雄市(3月6日)と台北市(3月7日)の2都市で開催し、関西11府県市の自治体やDMO、また域内の観光・宿泊事業者等66団体110名、台湾からは現地の旅行会社等2都市合計で124社171名が参加し、商談数は2都市計で1,086商談となった。

関西の参加者である、宿泊施設、食事施設、交通機関などの事業者からは、コロナ期間に新しくオープンした「新しいもの」、「体験」といった情報を中心に、台湾側のニーズに対応したアピールが行われた。この2年、コロナ禍によってオンライン開催を余儀なくされた本商談会は、双方の参加者の熱心な商談の場となり、参加者から高い評価をいただいた。



高雄市での商談の様子



台北市での商談の様子

5) 招請事業（ファムトリップ）

① スペインの有力旅行会社ファムトリップ（奈良県、奈良ビジターズビューロー連携）

奈良県および奈良県ビジターズビューローの協力の下、スペインの訪日旅行取扱人数ナンバーワンであるイベロ・ジャパンを、2022年7月4日～6日と7月11日～13日の2回の日程で奈良県に招請し、体験を中心としたファムトリップを実施した。

同社は、ゴールデンルートから一足伸ばす新たな滞在圏を探しており、新規素材として奈良県から提案のあった信貴山の宿坊・玉蔵院を紹介し、宿坊、精進料理、勤行（護摩行・大般若祈祷）を体験したほか、長谷寺にある重要文化財のご本尊の観音様のお御足に触れてお参りできる特別体験、けはや座での相撲体験、布都正崇鍛刀場での日本刀工房見学、真武館真勝流刀道の真剣による俵切体験など、奈良県ならではの体験型観光の魅力を訴求した。



けはや座での相撲体験（葛城市）

② イタリア市場向けランドオペレーターファムトリップ（福井県連携）

在京イタリア大使館や JNTO ローマ事務所とも繋がりの強い MTJ 社に対し、福井県の協力の下、2022年9月4日～6日の日程で、禅・伝統工芸・自然をテーマとしたファムトリップを実施した。

福井県は、2024年春予定の北陸新幹線敦賀開業により訪問者増が期待されることから、あわら温泉での宿泊と周辺の東尋坊・雄島・三國湊を訪問し、また、永平寺柏樹園でも宿泊と永平寺の朝のお勤に参加するなど、福井県での滞在を意識した行程で実施した。

また、欧州で人気の高い包丁造りのタケフナイフビレッジ、三方五湖のサイクリングや SUP 施設、日本の原風景を感じられる漁港での漁業体験を紹介するなど、福井県の魅力を関西や首都圏からのアクセスとともにアピールした。



平泉寺白山神社（勝山市）

③ ドイツ旅行社&スイスメディア対象ファムトリップ（びわこビジターズビューロー、姫路観光コンベンションビューロー等連携）

ドイツ語圏（ドイツ・スイス）に向けて日本行きツアーの企画・販売をしている旅行会社 Albrecht & Albrecht-Kojima GbR のスタッフと、スイスの雑誌（Schweitzer Familie）のジャーナリストの計2名のメディアファムトリップを2022年9月30日～10月2日の日程で実施した（JNTO フランクフルト事務所経由案件）。

びわこビジターズビューローと姫路観光コンベンションビューローの協力の下、滋賀・甲賀市のミホミュージアム、京都の東本願寺・嵐山モンキーパーク・伏見稲荷大社等、兵庫の姫路城、また関西国際空港出国前の時間を利用して心斎橋・道頓堀を紹介した。

ドイツでは日本向けを販売している旅行会社が少ないことから、本件を機に、Albrecht & Albrecht-Kojima GbR を関西への旅行商品造成のパートナーとして関係構築を図っていく。



嵐山・天龍寺

④ スペイン人インフルエンサーファムトリップ（奈良県、和歌山県、近鉄グループ連携）

スペイン主要テレビ局テレシンコ・メディアセットのジャーナリストであるインフルエンサー Ms. Laura Madrueno を、奈良県、近畿日本鉄道、近鉄・都ホテルズの協力の下、2022年11月29日～12月2日の日程で奈良県明日香村・奈良市・大阪市に招請し、情報発信ファムトリップを実施した（JNTO マドリッド事務所経由案件）。

スペインではゴールデンルートを中心とするツアーが人気のため、今回は京都から足を延ばせる地域の紹介を目的として、大阪滞在後は和歌山県のサポートにより高野山に2泊滞在するなど、合計10日の滞在を体験いただいた。



飛鳥・石舞台

⑤ フランス市場向け旅行社ファムトリップ（ひょうご観光本部連携）

2022年12月7日～10日の日程で、フランス語圏からの訪日旅行を専門に扱うフランストラベルセンターを、ひょうご観光本部の協力の下、招請し、姫路市・豊岡市・神戸市の滞在圏を意識した行程でファムトリップを実施した。

コウノトリの郷公園・玄武洞周辺の環境保全と城崎温泉、竹中大工工具館で宮大工の技術を学び生田神社でその活用を見学、杜氏・酒米・宮水・酒蔵の美味しい酒の4要素から兵庫の酒作り紹介するなど、ストーリー性をもって各地を案内した。また、たつの市室津港の牡蛎養殖と太子町の竹林を有機的に繋ぐ「環（めぐる）プロジェクト」が、テーマ「SDGs」に適ったものと評価されるなど、商品化への期待が高まる事業となった。



玄武洞（豊岡市）

⑥ 在 UAE 日本人インフルエンサーファムトリップ（京都府連携）

2025 年大阪・関西万博へのインバウンドの期待が高まる中、前回万博開催国であり、一人当たりの旅行消費単価の高い UAE からの訪日客増を図るため、京都府の協力の下、2021 年にドバイ政府公認インフルエンサーに認定された金子家暢（通称：マンスール）氏を起用し、中東でも人気の高い京都エリアの伝統工芸並びに観光コンテンツを取材するファムトリップを 2022 年 12 月 16 日～22 日の日程で実施した。

伝統工芸では、丹後ちりめん・日本刀鍛錬道場・京友禅並びに丹波栗を紹介し、観光では柳谷観音楊谷寺、トロッコ列車・保津川下り、天橋立、東映太秦映画村・嵐山、福寿園などを訪れながら、地域でのハラル対応可能なレストランを紹介した。この工程を基に作成された SNS 動画は最大 169 万人のユーザーが視聴した。



福知堂（丹波栗 PR）

⑦ マイクロネシアメディアファムトリップ（ユナイテッド航空等連携）

関西国際空港に乗り入れているユナイテッド航空と連携し、2023 年 1 月 11 日～15 日の日程で、米国高額消費者層を意識した「スピリチュアル」の世界観と関西の「食」をテーマにしたメディアファムトリップを実施した。

同航空は、コロナ以前には関西国際空港から北米・サンフランシスコ便を運航しており、関西への米国高額消費者層誘客において重要なパートナーである。また、従来、日本からのワンウェイで未着手マーケットであったグアム・サイパンを含むマイクロネシアエリアへも、関西国際空港から直行便を運航しており、グアム駐留米軍ファミリー層へのアプローチが期待できる。



ユナイテッド航空他来訪時の様子

今回、現地から TV 局 1 社、新聞 2 社、米軍専門誌 1 社を招請し、大阪・京都をベースに和歌山（高野山）、奈良（東大寺・春日大社）等を巡り、帰国後、米国人目線での関西の魅力発信が TV1 本、ラジオ 1 本、新聞 4 本、オンライン記事 7 本、SNS 26 本と大きく取り上げられた。今後、関空に就航するエアラインとの連携事業の一つのモデルとなった。

⑧ イタリア人インフルエンサーファムトリップ（京都府観光連盟、京阪ホールディングス等連携）

2023 年 2 月 24 日～3 月 1 日の日程で、イタリア人インフルエンサー SABRINA MUSCO MS. を招請し、京阪ホールディングス、比叡山・びわ湖 DMO、ホテルグランヴィア京都などの協力のほか、京都府を通じてお茶の京都 DMO や森の京都 DMO の支援を受けて、京都市とその近郊を巡るファムトリップを実施した（JNTO ローマ事務所経由案件）。同氏はファッション系の投稿も多く、ハネムーン目的としての訪関西検討層への訴求力が期待できる。

イタリア市場は、2015 年のミラノ万博の「日本館」が高く評価されたことで、2025 年大阪・関西万博に対する関心度の高い市場と言われていることから、今後も”KANSAI”の紹介を積極的に行っていく。



京都近郊ファムの様子

⑨ 高額消費者層に特化した旅行会社ファムトリップ（福井県、奈良県、近畿日本鉄道連携）

高額消費者層に特化した海外の旅行会社である SENTIO 社の代表者を招請し、福井県、奈良県、近畿日本鉄道の協力の下、2023 年 2 月 26 日～3 月 3 日の日程でファムトリップを実施した。

同社は「お客様に紹介する際は必ず自分の目で確認してから行う」というポリシーで経営しており、今回、福井県ではあわら温泉と永平寺、三方五湖の自然と御食国の熊川宿を紹介し、伝統工芸として越前和紙と越前打刀物を視察・体験した。奈良では早朝の長谷寺、日本のはじまりの飛鳥村、初代天皇が祀られている橿原神宮を面として紹介し、最終日は「日本刀」をテーマに鍛刀場と真剣による居合切り体験したほか、奈良市内では、ふふ奈良・登大路ホテル・むさし野旅館を、周辺散策と併せて紹介した。



布都鍛刀場

6）旅行会社向けセミナー及び現地セールスコール事業（観光庁補助事業）

① イギリス・フランス市場向け

観光庁の補助事業として、"THE EXCITING KANSAI"で造成したコースや地域のコンテンツの訴求と 2025 年大阪・関西万博の紹介を目的としたセミナーを、2023 年 2 月 1 日に仏国パリ市内にて旅行会社、トラベルデザイナー、メディア、JNTO 及び航空会社 25 名を対象に、また、同年 2 月 8 日には英国ロンドンのジャパン・ハウス・ロンドンにて 40 名を対象に実施した。

「よく知られている京都・大阪・奈良以外の関西広域の情報を得ることができ、いい意味でコース造成が難しくなる」等の声や、2025 年大阪・関西万博については参加者からの前向きな質問が多く、強い関心が寄せられた。

セミナーと合わせて、パリの旅行会社 7 社、ロンドンでは 9 社を訪問し、関西の広域観光、特別文化体験等のコンテンツを紹介した。英国の有名パブリック・スクールの一つであるイートン校を扱う教育旅行専門の旅行会社やゴルフに特化した旅行会社など、今後、高額消費者層向けの旅行商品造成に向けたセールスコールを行った。



セミナーの様子



セールスコールの様子

② 台湾市場向け

観光庁の補助事業として、"THE EXCITING KANSAI"で造成した広域観光ルートや地域のコンテンツの訴求と 2025 年大阪・関西万博の紹介を目的としたオンラインセミナーを、台湾市場で訪日旅行を取扱っている 40 社強の旅行会社を実施し、そのうち特に当該商品に関心の高かった旅行会社 7 社に対し、2023 年 3 月 8 日～10 日の日程でセールスコールを実施した。

台湾市場は訪日旅行を大いに待ち望んでいる一方で、旅行会社が人員削減等により海外旅行需要に対応しきれないという状況も垣間見えたが、今回の提案したコースが、新たな商品づくりの参考になったという旅行会社もあり、本格インバウンド再開以降の送客増に繋がる事業となった。



③ タイ市場向け

観光庁の補助事業として、"THE EXCITING KANSAI"で造成したコースや地域のコンテンツの訴求と 2025 年大阪・関西万博の紹介を目的としたオンラインセミナーを、タイ市場で訪日旅行を取扱っている 30 社強の旅行会社を実施した。また、そのうち特に当該商品に関心の高かった旅行会社 7 社に対し、2023 年 2 月 1 日～3 日の日程でセールスコールを実施した。

2022 年 10 月の日本側の水際制限の大幅緩和以降、タイでは訪日旅行が動き出しており、関西については、従来の人気エリアだけではなく、密回避を意識したエリアを巡る旅行に対する関心が高かった。



7) 外国人留学生による「KANSAI ファン・モニターツアー」を琵琶湖・淡路島で実施

びわこビジターズビューロー、淡路島観光協会および近畿運輸局の協力の下、関西国際大学国際コミュニケーション学部観光学科で選抜された留学生による、琵琶湖・淡路島それぞれを巡るモニター・ツアーを 2022 年 8 月 9 日～10 日の日程で実施した。

関西で学ぶ留学生が、「関西のファン」として、琵琶湖・淡路島の魅力を体感した感想を SNS 上で動画配信するというこの企画は、若者の感性により感じ取れた地域の魅力を直接配信するものであり、地域のコンテンツ磨きへのアドバイスを提供することにもなっている。



琵琶湖博物館



淡路人形座

8) 米国市場旅行博「Los Angeles Travel & Adventure Show (LATAS) 2023」出展

2023年2月18日～19日、ロサンゼルスで開催された大規模旅行博「LOS ANGELES TRAVEL & ADVENTURE SHOW 2023」(以下 LATAS)に、参加希望府県市と共同出展した。

米国は、世界最大の高額消費者層マーケットであり、LATAS には、毎年、海外旅行を検討する個人の多くが情報収集に訪れることから、2025 年大阪・関西万博の紹介とともに、関西各地の魅力と広域観光ルート"THE EXCITING KANSAI"について訴求した。

また、航空会社や旅行代理店、各国政府の観光局等も出展し、情報収集等が行われることから、有力旅行代理店との商談を実施した。さらに、旅行博前には JNTO、日系航空会社・旅行代理店等の現地事務所を訪問し、関西観光の最新情報を提供するなど連携強化を図った。



9) 台湾新光三越における関西プロモーション

台湾新光三越百貨店が主催する「日本商品展」は、例年、多くの来場者があるイベントである。昨年は台北（1 店舗）のみで開催されたが、本年は3 都市（3 店舗）に拡大し開催された。当本部は、関西国際空港全体構想促進協議会との連携の下、関西観光特展ブースを出展し、関西各地の魅力や関西国際空港へ就航しているエアラインを紹介した。出入国規制が大幅緩和により、台湾から日本への来訪意欲は高まっており、円安などの好条件も相まって、関西を訪問してショッピングなど楽しみたいという多くの声が寄せられた。

【開催期間】

新光三越 台中中港店 : 2022 年 10 月 14 日～ 10 月 26 日

新光三越 台北信義新天地 : 2022 年 10 月 20 日～ 11 月 6 日

新光三越 台南新天地 : 2022 年 11 月 17 日～ 12 月 4 日

10) 台湾インフルエンサー向けセミナー

2023 年 3 月 7 日、関西広域連合および近畿運輸局と連携し、台湾（台北）にて、台湾のタレントおよびインフルエンサーを招請した観光セミナーを開催した。関西広域連合の進行のもと、京都府、ひょうご観光本部、大阪観光局、奈良県、和歌山県、鳥取県、福井県観光連盟、神戸観光局による観光プレゼンテーションや交流会にて個別のコンテンツを紹介するなど、インフルエンサーが SNS 発信するための素材提供を積極的に行い、数多くの記事配信に繋がった。



1 1) 様々な機会を通じた関西広域観光 8K 動画の上映等

① 機内でのオンライン特別文化体験動画（京都篇）の上映等

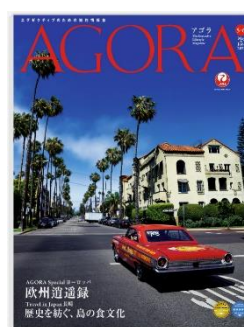
日本航空の協力の下、2023 年 1 月 1 日～3 月 31 日の間、国内線および国際線、JAL グループ国内線個人画面ビデオプログラム、個人デバイス前方スクリーンにてオンライン特別文化体験動画の京都篇を上映した。また、機内誌「SKYWARD」5 月号、会員誌「AGORA (88 万部)」5-6 月号にて関西の「本物」、「唯一」のコンテンツに特化した情報である“Premium 関西”を紹介した。



JAL 国内線個人画面ビデオプログラム



機内誌「SKYWARD」



会員誌「AGORA」

② 国内外の家電量販店 TV 売場にて当本部 8K 動画を上映

REGZA ブランドの TV の新製品デモ映像として当本部の関西広域観光 8K 動画が採用された。これにより、国内主要家電量販店 2,574 店舗の TV 売場にて動画が上映された（2022 年 4 月～2023 年 3 月）。また、海外においても、タイ、マレーシア、インドネシア、ベトナム、インド、シンガポール、台湾、ブラジル、アジア新興国、豪州、欧州・中東・アフリカ他の家電量販店 TV 売場にて上映中である（2022 年 10 月～）。



REGZA 採用 8K 動画

1 2) 関西国際空港における訪日観光本格再開ウェルカム・イベント開催

2022 年 10 月 11 日から個人旅行を含む観光目的の入国が本格的に再開されたことを受け、訪日外国人の関西の玄関口である関西国際空港において、近畿運輸局、自治体、観光事業者と当本部が共同して、おもてなしの気持ちを込めたウェルカム・イベントを開催した。

当日の様子や歓迎のコメントは、新聞社、テレビ局（NHK ワールド含む）など多くの報道機関によって日本全国・世界各地に報道された。



関西国際空港におけるウェルカム・イベント

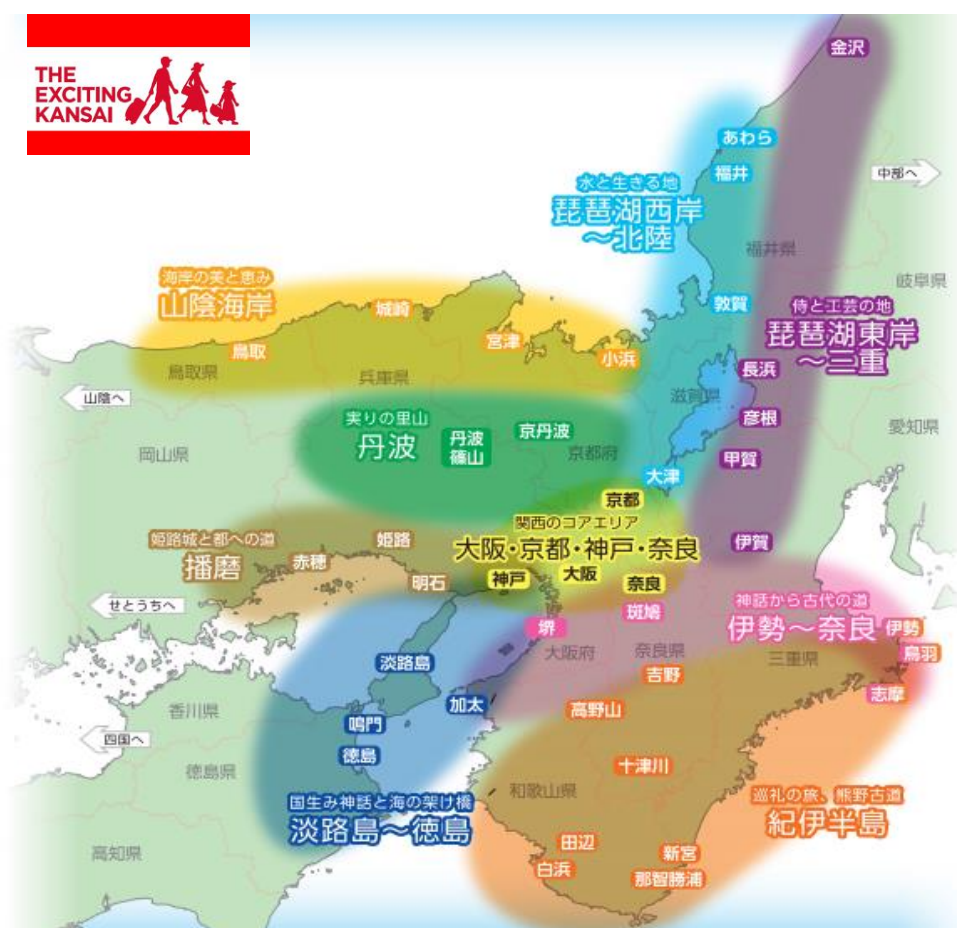
2. 地域を磨く・つなぐ

1) 広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」の推進

当本部は地域と密に連携して、関西一円に海外旅行者が訪れ、地域が賑わい潤う姿の実現を目指して、京都市、大阪市、神戸市、奈良市、堺市を拠点（コアエリア）とする広域観光ルートの形成を図る“THE EXCITING KANSAI”の取り組みを進めている。

具体的には関西全体を8つのエリアに分け、自治体、地域・地域連携 DMO や地域の企業などと連携して地域の価値やコンテンツを洗い出し、共通のテーマやストーリーでつなぐ広域観光ルートを巡る旅行商品の造成を行っている。また、このルートに各地での体験型商品を集約して、旅行者の興味や関心を惹きつける動画を制作し、Web サイト等を通じて情報発信を行っている。

当本部は、この広域観光ルート“THE EXCITING KANSAI”と「テーマツーリズム」を両輪として“KANSAI”が世界の旅行者から目的地として選ばれる「グローバル・ツーリズム・デスティネーション」の実現を目指している。



【8つの広域観光ルートの概要】

(ア) 紀伊半島

和歌山県・奈良県・三重県…「巡礼の旅」のエリア

巡礼の道、熊野古道は千年以上の時を経て日本の精神の原点を現代に残す。自分に向き合い高めるスピリチュアルな道。

【主要観光素材】熊野三山、高野山、熊野古道、吉野、十津川



(イ) 播磨

兵庫県…「名城と京への道」のエリア

都と西国を結ぶ要衝にあって、世界遺産 姫路城を中心に今でも残る戦国・侍文化。現代に至るまで多様な文化を受け入れながら発展している。

【主要観光素材】姫路城、圓教寺、赤穂、有馬温泉、神戸灘の酒蔵



(ウ) 琵琶湖西岸～福井

滋賀県・福井県…「水と生きる道」のエリア

日本最大の湖・琵琶湖。後背地の山々の豊かな雪解け水は田畑を潤し、水郷を形成しながら暮らしや信仰に息づいている。

【主要観光素材】琵琶湖、比叡山延暦寺、永平寺

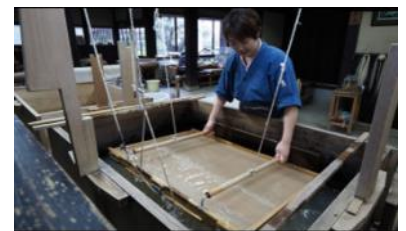


(エ) 福井～琵琶湖東岸～三重

滋賀県・福井県・三重県…「侍と工芸の地」のエリア

多くの武士が往来し武家文化・忍者文化が栄えたこのエリアは、千年以上続く伝統工芸から現代的なものまで「クラフト」のエリアでもあり、多くの匠を育ててきた。

【主要観光素材】越前漆器、越前打刃物、信楽焼、彦根城、伊賀忍者



(オ) 神戸～淡路島～徳島

兵庫県・徳島県…「神話と海の架け橋」のエリア

内海ゆえの島影や渦巻く潮流など穏やかで広大で変化に富んだ海。ゆっくり滞在すると海に日が昇り、沈み、そこに生まれた国生みの神話や生活者の文化も見えてくる。

【主要観光素材】明石海峡大橋、鳴門の渦潮、人形浄瑠璃、藍染め



(カ) 山陰海岸

福井県・京都府・兵庫県・鳥取県…「海岸の美と恵」のエリア

奇岩や断崖の岬と漁村が交互に続く独特の地形は、息をのむ景色と豊かな漁場、穏やかな人々の営みを形成している。

【主要観光素材】三方五湖、天橋立、城崎温泉、鳥取砂丘



(キ) 奈良～伊勢

奈良県・三重県…「神話から古代の道」のエリア

神話時代までさかのぼる日本の原点。政治・文化のオリジンはここにあり、いくつもの時代の足跡が多重に折り重なる。

【主要観光素材】伊勢神宮、海女文化、斑鳩、飛鳥、吉野



(ク) 丹波

京都府・兵庫県…「実りの里山」のエリア

京都と兵庫にまたがる「丹波国」は独自の作物が実る、豊穡の里山。そこに街道の要衝となる城下町や、都の食材を支えた町など個性が光る暮らしがある。

【主要観光素材】丹波篠山の城下町、丹波焼、美山、丹波の食材



① 新たに5つの「広域観光ルート旅行商品」を造成し販売開始

広域観光ルート“THE EXCITING KANSAI”については、これまで高額消費者層を対象に、8つのエリアそれぞれを象徴する旅行商品を順次造成している。2022年度は新たに2ルートの旅行商品造成に加え、ルートをまたがる3コースの商品造成を行うなど、広域観光ルートの深化を進めるとともに、旅行商品の流通環境整備に努めている。

【広域観光ルート】

- 伊勢～奈良ルート：4泊5日 造成販売事業者：近畿日本ツーリスト
<https://www.kintetsu.com.au/japan/jp-uaa/>
- 福井～琵琶湖東岸～伊賀ルート：4泊5日 造成販売事業者：奥ジャパン
<https://www.okujapan.com/trips/eastern-biwa-self-guided-walking-5-days-premium/>

【ルートをまたがる3コース】

- 徳島～加太(和歌山市)ルート：3泊4日 造成販売事業者：南海国際旅行
https://www.nanka-e-tabi.com/the_exciting_kansai/
- 若狭～京丹波ルート：2泊3日 造成販売事業者：JTB
https://www.jtbgmt.com/luxury/travel_style/detail/23
- 三重～滋賀(東海道)ルート：2泊3日 造成販売事業者：奥ジャパン
<https://www.okujapan.com/trips/tokaido-self-guided-walking-3-days-premium/>

2) 関西広域観光デジタルマップの構築

一般社団法人関西イノベーションセンター及び株式会社 Strolly が開発・普及する関西エリア一円の観光情報を広域デジタルマップにより提供する「関西広域デジタルマッププラットフォーム事業」は、広域観光の促進に有効な新しい情報提供基盤となり得ることから、当本部は、2025年大阪・関西万博での実用化に向けて、この事業を支援している。2023年3月にはデジタルマップβ版が完成したことから、今後は、より多くの自治体・観光協会・事業者に参加を呼び掛け、旅マエや旅ナカでの情報発信強化を図っていく。



関西広域観光デジタルマップ

3) 「第7回 UNWTO ガストロノミーツーリズム 世界フォーラム」にて広域観光圏"KANSAI"を紹介

2022 年 12 月 13 日、14 日の 2 日間、奈良県コンベンションセンターで開催された国際会議「第 7 回 UNWTO ガストロノミーツーリズム世界フォーラム」において、関西経済連合会・関西広域連合と合同で関西観光の紹介ブースを出展し、関西広域の多彩で豊富な観光情報を紹介した。

ブースでは、動画や QR コードを活用し、広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」や酒蔵ツーリズム等の紹介を行うとともに、ハラル対応等、食の多様性についてのデモンストレーションを実施した。

● フォーラムへの来場者

会 場: 約 30 カ国 450 人以上(国内約 300 人、海外約 150 人)

オンライン: 125 カ国以上 1,000 人以上



広域観光ルート「THE EXCITING KANSAI」や酒蔵ツーリズム等ブースで紹介

4) 西日本の広域連携 DMO 間の連携協力の枠組み作りに着手

西日本（関西、四国、瀬戸内及び山陰）は、歴史的、文化的な繋がりが強く、国際拠点空港である関西国際空港をゲートウェイとするインバウンドの促進などを柱に連携することで、西日本の魅力ある豊富な観光資源を活用して、これまで以上に魅力ある観光ルートの形成、テーマツーリズムの創出が促進されることが期待される。また、このことは、関西国際空港のネットワークの充実、神戸空港の活用及び訪関西旅行者増につながることが期待され、西日本全体のインバウンドを底上げにつながる。

そのため、このエリア全体の新しい観光の姿を創出することを目指して、関西エアポート株式会社と連携しつつ、このエリアの広域連携DMOとの連携のための協議に着手した。今後、具体的な事業の検討を進め、次年度早期に連携の枠組みを確立することとしている。

3) サステナブル・ツーリズム調査・戦略策定事業

観光庁の補助事業を活用し、関西の2府8県から推薦のあったサステナブル・ツーリズムのコンテンツについて、インバウンド専門家による選定を行い、現地視察等により、コンテンツの磨き上げのポイントを整理し、地域へフィードバックを行った。これを踏まえ、次年度以降、ツーリズム化に向けた検討を進める。

【事業スケジュール】

- 2022年11月：本事業の概要説明会の実施（10府県）
- 2022年12月：専門家による選定会議（66コンテンツ→20コンテンツ）
- 2023年1・2月：専門家による現地訪問（20コンテンツ）、内部検討会の実施
- 2023年3月：全体報告会（2回）＜10府県へ20コンテンツの課題・提言等フィードバック等＞

4) 御食国事業

御食国（みけつくに）は、日本古代から平安時代まで、皇室・朝廷に海水産物を中心とした御食料（穀類以外の副食物）を貢いだと推定される国を指し、これまで、京都府・兵庫県・福井県・三重県が連携事業として協議会を設け、キャンペーン活動等を行ってきた。これを基に、今後、ツーリズム化を実現するため、2022年度から当本部が事務局として参画している。

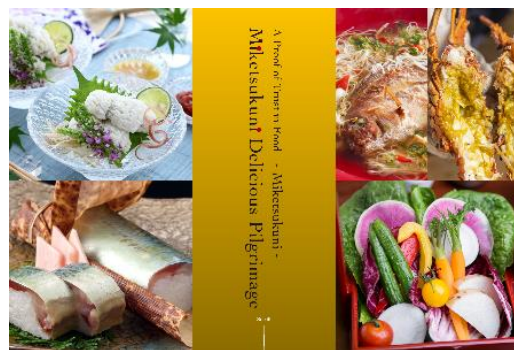
2022年度は、京都、若狭、淡路島、伊勢志摩の食文化や歴史的背景等をストーリー化し御食国ブランドとして普及を図るため、国内外に情報発信するための専用のプラットフォームを構築した。今後、2025年大阪・関西万博に向けて、ツーリズム化を促進する。

【事業内容】

- 御食国ストーリー・ブランド構築事業（①御食国資源の素材収集と一覧化、②スペシャリストチームによる現地視察及びブランド化に向けた検討、③カスタマー調査(国内向け及びインバウンド向け)の実施、④御食国ブランド検討全体会の実施）
- 御食国情報発信プラットフォーム構築・情報発信事業（①インバウンド向け観光情報サイト「The KANSAI Guide」による情報発信、②国内OTA(じゃらんnet)による情報発信）



みけつ国 Web サイト 日本語



みけつ国 Web サイト 英語

5) 酒蔵ツーリズム

近年の海外での日本酒の普及に伴い、日本酒及びそれを旅行商品化した酒蔵ツーリズムはインバウンドにおける新しい誘客コンテンツとして認識されている。そのため、当本部は、「伝統的酒造り」のユネスコ

無形文化遺産登録をも念頭に、国税庁の支援事業として、関西の酒蔵を体験型コンテンツとして磨き上げ、体験と販売を一体的に提供する「酒蔵ツーリズム」の開発を進めている。

今年度は、これまでに構築した海外別送の仕組みの普及促進と実証実験対象国の拡大、関西の通訳案内士等を対象とするワークショップやガイドツアー造成を実施した。

【構築した海外別送の仕組みの普及促進】

簡易な海外別送の仕組み「KANSAI Beaver Delivery」の酒蔵ツーリズム関係者に対する普及促進を図るため、動画制作・提供やワークショップ開催を実施した。

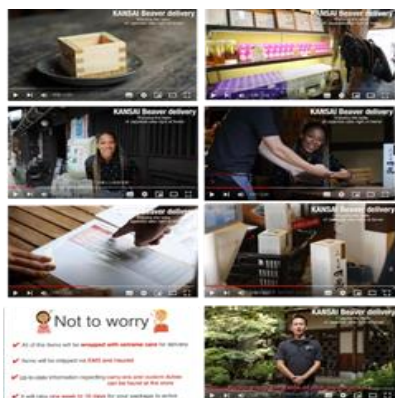
- ・ 海外別送促進動画（3種類：酒蔵向け、通訳案内士等事業者向け、訪日旅行者向け）
- ・ 酒蔵を対象とする個別のワークショップの開催（5蔵 計8回）
- ・ 通訳案内士を対象とする海外別送ワークショップの開催（オンライン2回 計15名参加）

【海外別送実証事業】

酒蔵からの海外別送の課題である「インボイス作成の煩わしさ」、「破損リスク」、「国別通関事業が分かりにくさ」を解決する簡便な仕組み「Kansai Beaver Delivery」の対応力を更に強化するため、これまで実証した台湾、香港、シンガポール、豪州、英国、中国、タイに欧州3ヵ国（イタリア、フランス、スペイン）を加えるとともに生酒などに対する品質確認のための実証を台湾に対して行った。海外別送は品質保持を含め、いずれも問題なく実施し、実用化の段階に至った。

【関西の通訳案内士等を対象とする人材育成とガイドツアー造成促進】

通訳案内士等を対象とする酒蔵ガイドツアーを造成するための酒蔵を訪問するワークショップを開催（2蔵2回計12名参加）するとともに、ガイドツアーの造成を進め（8コース造成済み）、当本部にて構築したガイドツアー検索サイト「Kansai Recommended Guide」を通じて発信している



旅行者向け動画



旅行商品造成ワークショップ



酒蔵でのワークショップ

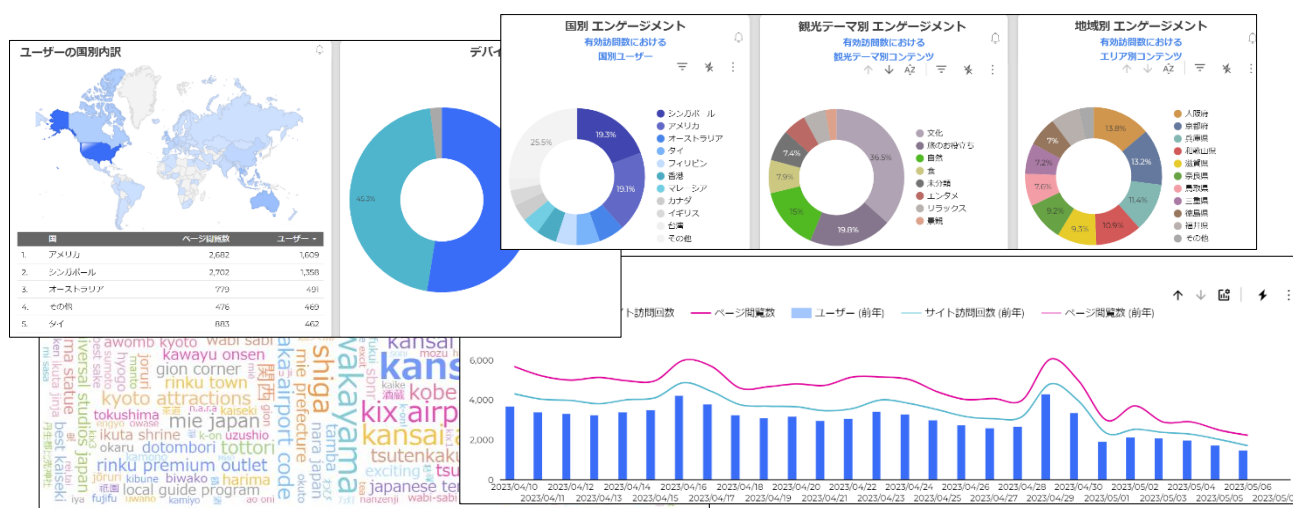
4. 観光のパラダイムシフトへの対応と観光インフラの強化

1) “The KANSAI Guide”を活用した“マーケティングダッシュボード”の開発・運用

関西観光のマクロ・ミクロの戦略策定に活用するため、“The KANSAI Guide”の訪問者数増に比例して拡大するアクセスデータを用いて、プロモーション事業の効果、旅行者の嗜好等を分析するツールとして、「マーケティングダッシュボード」を開発し、運用を開始した。

このツールは、閲覧者が“The KANSAI Guide”を訪問する際に検索したキーワード、閲覧者のサイト内のコンテンツへのアクセス状況や滞在時間等が分かる行動履歴、閲覧者の属性等が分かるデータを分析することにより、市場ごとのニーズや傾向などが把握できる機能を有するものである。また、ユーザーが容易に操作できるようユーザーフレンドリーなツールとして開発したところである。

2023年度から、地域の誘客戦略等に活用いただけるよう、マーケティングダッシュボードの閲覧権を構成府県市へ付与することとしている。



マーケティングダッシュボード各種画面

2) 文化観光の促進のための基盤づくり（関西広域連合との連携事業）

① 関西文化の情報を一元的に扱うポータルサイトの作成

我が国屈指の文化資源が集まる関西において、文化観光はテーマツーリズムの重要な柱である。そのため、関西広域連合と連携して、関西広域連合等が所有する関西の文化関連の5サイト及び1コンテンツを当本部が運営する“The KANSAI Guide”に一元化し、ワンストップで情報閲覧ができるように整備した（①関西祭.com、②関西の日本遺産、③関西「文化の道」事業ものがたり街道、④関西文化.com、⑤関西人形浄瑠璃“人形浄瑠璃街道”、⑥古墳を巡る祈りの旅）。

② 文化施設をめぐるデジタル・ミュージアムパスの制作

観光客により便利に博物館や美術館等の文化施設を巡っていただくため、関西広域連合とともに関西の主要なデジタルパスポートの制作に着手した。今年度は、ミュージアムぐるっとパス・関西実行委員会事務局と連携して、国内外の市場調査及び販売促進策等の調査等の基本設計を行った。令和6年4月の発行を目指して、計画的な取り組みを進めている。

3) 通訳案内士のスキルアップ事業の実施

旅ナカで直接訪日外国人旅行者に接する通訳案内士は、重要な観光人材であり、高額消費者層とのアクセスチャンネルとしての活躍も期待できる。そのため、通訳案内士に対するスキルアップ研修等の支援を継続的に行っている。

2022年度の「通訳案内士スキルアップ研修」は、昨年度同様に新型コロナウイルス感染防止を勘案して全て動画配信によるオンラインセミナーとし、「お祭り」、「高額消費者層向け」をテーマに全12講座のセミナー動画(30~40分)を制作、希望する通訳案内士に専用サイトから配信した。また、「南紀熊野ジオパーク」などをテーマに全11回の通訳案内士を対象とする実地研修やファムトリップ、ワークショップを実施した。また、2021年度に構築したツアー検索サイト「Kansai Recommended Guide」を活用し、通訳案内士自らがプライベートなガイドツアーを企画・造成・販売する本格的なツアー造成を進めている。



通訳案内士スキルアップ研修サイト



ガイドツアー検索サイト「Kansai Recommended Guide」

【地域のお祭り研修セミナー】

地域の伝統行事や祭礼などのお祭りをテーマとして通訳案内士の知見を高めてもらうことを目的にお祭り8行事の研修セミナーをオンライン視聴形式で実施(住吉祭、宮津祭、デカンショ祭、氷室神社例大祭、大津祭り、熊野速玉大社例大祭、阿波農村舞台、倉吉打吹祭)。上記セミナー対象から3祭を対象に通訳案内士を対象とする実地研修を開催(住吉祭、氷室神社例大祭、大津祭)



氷室神社例大祭



大津祭

【通訳案内士による高額消費者層向けツアー造成】

- ・ 有識者会議による新たな魅力創出のための地域選定とストーリーづくり(4エリア:宇治、亀岡、明日香、大阪錫器)
- ・ 商品イメージとストーリーに基づく地域ごとのオンラインセミナーの開催
- ・ 高額消費者層向けツアー造成のためのファムトリップの実施とワークショップの開催



明日香村



大阪錫器

【南紀熊野ジオパークを巡る周遊観光促進事業】

- ・ ファムトリップ（2022年9月5日～6日、通訳案内士2名、旅行商品造成エージェント1名）
- ・ 販売試行に対する支援（モデルコース造成と海外エージェント・Webサイト等での情報発信）
- ・ ガイドツアーの造成（2コース）とジオパーク研修会の開催（2022年12月22日）

【丹波篠山市通訳案内士ファムトリップ】

- ・ ファムトリップ（2022年12月7日～8日、通訳案内士2名、旅行商品造成エージェント1名）
- ・ ガイドツアーの造成（日帰り3コース、1泊2日1コース）



南紀熊野ジオパーク事業



丹波篠山市通訳案内士ファムトリップ

4) ホテルコンシェルジュのネットワーク強化

ホテルコンシェルジュは、旅行者と直接接点を持つ観光人材であり、旅ナカにおいて大切な人財である。そのため、近畿運輸局と連携して、これまで2年間、関西のラグジュアリーホテルとの意見交換会の開催などを通じて、ネットワーク化を進めてきたところである。

今年度は、交流会の規模を拡大して開催したほか、情報共有プラットフォームの構築、ホテルコンシェルジュ等から見る旅行者ニーズの紹介動画作成等に取り組んだ。

【ホテルコンシェルジュ等と地域観光事業者の交流会の開催】

対面案内の経験豊富なホテルコンシェルジュ等に関西の地域コンテンツを見る機会・知る機会を提供した。また、通訳案内士と地元観光事業者などが知り合うための交流会を9回実施した（コンシェルジュ計35名、通訳案内士計35名、事業者15名、その他45名参加）。

※地域コンテンツ：人形浄瑠璃、六甲山、大阪ワイン、包丁・和食、奈良東部、奈良斑鳩、宇治茶房工房、英語落語

【地域コンテンツ情報を集約したプラットフォーム機能の構築・整備】

関西のおすすめガイド・おすすめガイドツアー、エリア別情報（34コンテンツ、動画36本、レポート類23本）等を掲載するホテルコンシェルジュ等が簡単に情報収集できる情報共有プラットフォームを整備した。

【ホテルコンシェルジュ等から見る旅行者ニーズの紹介動画】

ホテルコンシェルジュから見る旅行者ニーズを紹介する動画（セントレジス大阪&大阪ワイン）やインバウンド宿泊客等への案内にも活用できる動画を作成した（既存編集9本）。



交流会の様子



コンシェルジュ情報共有サイト



旅行者ニーズ紹介動画

5. 事業推進のための基盤整備

1) 「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」の推進

大阪・関西万博が開催される 2025 年を目標年次として、関西を目指す姿や基本戦略等を取りまとめた「関西ツーリズムグランドデザイン 2025」(2022 年 3 月)は、関西の観光に携わる関係者が「ONE 関西」として、3つの基本戦略と 4つのアクションに基づき、“KANSAI”がグローバル・ツーリズム・デスティネーションとなることを目指している。

実施初年度である 2022 年度は、4つのアクションを実現するための各種の事業に取組んだほか、成果指標として今後基準となる「幸福度調査」を実施した。



2) インバウンド情報誌「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE」発刊

「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE」は、当本部がインバウンド向けに制作している情報誌であり、会員企業・団体の広告とともに、旅行に役立つ関西の地図、交通路線図や“THE EXCITING KANSAI”の 8つのルートの魅力など、訪日外国人旅行者にとって役立つ情報を掲載している。この情報誌は関西国際空港をはじめ関西のインフォメーションセンター約 60 か所に配架し、また、デジタル版を作成し、当本部が運営する Web サイト“The KANSAI Guide”に掲載するほか、海外でのオンライン旅行博でも活用している。

本格的なインバウンド受入再開となった 2022 年 10 月以降、この情報誌に対する需要が急増したことから、2022 年 10 月、増刷するとともに、2023 年 3 月には、一部内容を更新した「KANSAI OFFICIAL TOURIST GUIDE 2023-2024」を発刊した。



3) 関西インバウンド交流会 2023

自治体、地域・地域連携 DMO、観光事業者等が集まり、セミナーや商談会を通じて関西のインバウンド誘致活動の活性化を図る「関西インバウンド交流会」は、を 4 年振りにリアル開催した。2019 年度から 2021 年度は新型コロナの影響を受け、中止もしくはオンラインでの開催であったが、今年度は、当本部の会員、構成団体、オブザーバー、DMO 団体、官公庁等 173 名が参加して行われた。

今回は、第 1 部講演会・セミナー、第 2 部ビジネス交流会の 2 部構成とし、希望する会員向けに商談・PR ブースを設けた。第 1 部は、観光庁及び JNTO の実務トップから国の政策やプロモーションの現状と今後について紹介いただいたほか、2025 年大阪・関西万博についての講演会を開催した。また、当本部職員による事業報告に加え、「食」をテーマにした事例紹介を通じたパネルディスカッションを行った。

- 日 時：2023 年 3 月 27 日 <第 1 部：講演・セミナー> 13 時 00 分～17 時 00 分
<第 2 部：ビジネス交流会> 17 時 30 分～18 時 30 分
<会員企業による PR・商談ブース> 13 時 00 分～18 時 30 分
- 場 所：ナレッジキャピタル イベントラボ（大阪市北区大深町 3-1 グランフロント北館 B1 階）
- 主催等：主催：関西観光本部 協力：近畿運輸局 協賛：一般財団法人運輸振興協会
- 参加者：会員・構成団体、DMO 団体、官公庁等 173 名

● 内 容：

＜第 1 部＞講演会・セミナー

- ・ 「観光の現状と今後の取組」：観光庁観光地域振興部長 中村 広樹 氏
- ・ 「インバウンドにおける最新動向と、今後インバウンド観光客を受け入れるにあたって」：国際観光振興機構(JNTO)理事 中山 理映子 氏
- ・ 「大阪・関西万博の概要と万博を契機とした観光推進について」：2025 年日本国際博覧会協会機運醸成局上席審議役兼地域・観光部長 波々伯部 信彦 氏
- ・ 「関西観光地づくり支援調査 訪関西意向率の現況と誘客すべきターゲットのペルソナ像について」：関西観光本部調査役 遠藤 このみ
- ・ パネルディスカッション「関西観光の目的 第 1 位“食” 食材&食文化の地域ブランディングとは？～2 県で行う「新ご当地グルメ開発」行政×民間事業者ディスカッション～」
ファシリテーター：ご当地グルメ開発プロデューサー 田中 優子 氏
パネリスト：南あわじ市商工観光課 観光交流・施設室長 土居 正典 氏、
鳴門市産業振興部観光振興課 主事 前田 千春 氏、
株式会社うずのくに南あわじ 総料理長 藤見 泰之 氏、
リゾートホテルモアナコースト 常務取締役 芝野 尚 氏

＜第 2 部＞ビジネス交流会 会員、構成団体・オブザーバー、DMO、ご紹介者

＜会員企業による PR・商談ブース＞ 会員企業 8 社出展

4) 会員への情報発信

当本部の活動を支えていただいている構成団体・会員の皆様に、最新の観光情報や当本部の活動をお伝えするため、様々な情報発信を行っている。今年度のインバウンドの状況等の情報の提供回数は 105 回（前年度 127 回）であり、内訳は「訪日外国人旅行動向データ/KPO レポート」25 回、「新型コロナウイルス関連情報」47 回、「研修および会員等からの告知」33 回である。

また、2021 年 4 月に、コーポレートサイト内に会員の商品やサービス等の案内を掲載する「会員からのお知らせ」や、現在メールで配信している情報のアーカイブやセミナー動画などのコンテンツを掲載した「会員専用ページ」を開設しており、構成団体・会員の皆様に活動頂いている（今年度掲載 84 件）。



5) 大阪・関西万博に向けた関西アクションプラン（近畿運輸局、近畿地方整備局との連携）

2022 年 6 月、近畿地方整備局・近畿運輸局・関西観光本部の 3 者は、関西の観光・交通の回復に向け、「大阪・関西万博」を最大の好機と捉え、国が支援・実施する取組みの基本的な方向性と重点的に取り組むべき事業等を「大阪・関西万博に向けた関西観光アクションプラン」としてとりまとめた。

【アクションプランのポイント】

- 「テーマ・ストーリー」「人材」「情報」の 3 つの視点で地域をつなげる。
- 3 者が手を携え、取組効果を最大限に発揮。
 - ・ 社会資本整備の実施（近畿地方整備局）
 - ・ 観光・交通政策の実施（近畿運輸局）
 - ・ 広域連携 DMO として取組を実施（関西観光本部）

6) マスターカードとの連携協定締結

2023 年 2 月 21 日、当本部と Mastercard は、関西におけるインバウンドの拡大に向けた連携協力を行うため、戦略的パートナーシップを締結した。関西 2 府 8 県を対象エリアとした広域連携 DMO の当本部と、グローバル・テクノロジー・カンパニーとして世界に強い情報発信力を有し、国際基準の決済ネットワークを提供する Mastercard との提携により、関西のインバウンドの量的拡大と高額消費者層等の取り込みの促進のための事業を実施するとともに、旅行消費を増加させるための活動を協力して推進していくこととしている。



7) “KANSAI ONE PASS”の運営

訪日外国人向け優待特典付き IC カード型乗車券である”KANSAI ONE PASS”は、新型コロナウイルスの影響により、継続的に低調な販売実績であったが、2022 年の 10 月の出入国条件緩和以降発売が急回復し、2022 年 10 月～2023 年 3 月の発売実績は 14,134 枚であった。次年度は、年間を通しての販売が期待される。



8) EXPO2025 関西観光推進協議会の発足

2025 年大阪・関西万博は、関西観光の飛躍のための好機である。このナショナルイベントの効果を関西一円に波及させるためには、万博に訪れた旅行者を関西一円に誘う施策を行うことが必要である。そのため、関西広域連合と・関西経済連合会と当本部は、万博の機運醸成とともに「万博会場から地域へ」を旗印に、①旅行商品造成・販売、②リアル・デジタルのプロモーション、③旅ナカでのサポートと「関西広域観光情報ゲートウェイ」の構築を進める「万博プラス関西観光推進事業」を立案し、2023 年 3 月 23 日、その推進体制として、「EXPO2025 関西観光推進協議会」が設立された。同協議会は、関西の 2 府 8 県 4 政令市、民間企業・団体、関西広域連合、関西経済連合会が構成員となる関西一丸となった協議会であり、当本部は、その事務局を担うこととされた。

第 1 回の協議会では、「万博プラス関西観光推進事業」として、旅行商品や観光コンテンツの造成事業、プロモーション事業、旅行者に対する情報提供やサポートに関する事業、関西の広域観光及び安心安全等に係る情報提供基盤の構築のための事業などに取り組むことが決定された。

また、設立時に行われた共同会見では、構成団体が「ONE 関西」として、万博及び関西観光への誘客など広域観光を集中的に推進することを内容とする「EXPO2025 関西観光推進宣言」が採択された。

【EXPO2025 関西観光推進宣言】

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、大阪・関西万博が 2025 年に開催されます。

国内外から「関西」が注目を集めるこの機会を活かし、「関西各地を旅してもらう取組」を通じて、関西各地での交流の機会を増やすとともに、万博会期終了後も、いのち輝く社会を実現するため、観光を通じた国内外との交流人口を拡大させ、関西全体の成長・発展を目指す必要があります。

EXPO2025 関西観光推進協議会は、関西の未来社会を見据えながら、万博開催までの 3 カ年において、関西の活性化に向け、万博及び関西観光への誘客など広域観光を集中的に推進することとし、参加団体の密な連携により「ONE 関西」で一丸となって取り組むことをここに宣言します。

2023 年 3 月 23 日

(参加団体名：略)



6. 各種事業

1) 子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業「関西キッズ伝統文化プログラム 2022」

本イベントは、各地域の子供たちを対象に、リアルイベントによって実際に伝統文化に触れる機会を創出するとともに、Web 上にて情報発信を行い、機会増大を図り、サステナブルな文化観光資源の活用促進につながることを目的とした文化庁の事業であり、当本部が受託して実施した。

具体的には、鳥取、兵庫、奈良、徳島、大阪、滋賀、和歌山、京都の2府6県それぞれの商業施設内のイベント会場にてそれぞれ1日の伝統文化の体験イベントを開催した。各会場では、共通芸能の落語と昔遊び・けん玉と三味線や生け花など4種の地域色ある伝統文化による1時間程度の体験教室を計20コマ開催するとともに、特設ステージでの伝統文化実演鑑賞を行った。合わせてホームページを開設し、イベントの様子や伝統文化実演などのアーカイブ配信を行っている。各会場では、日頃体験する機会の少ない、例えば三味線、琴、雅楽などの楽器、人形浄瑠璃、南京玉すだれ、けん玉まわし等に、目を輝かせて熱中する子供たちの姿が目立った。また、各会場のステージでは JAL（日本航空）ふるさと応援隊であるキャビンアテンダントが司会者として会場を賑わせた。



関西キッズ伝統文化プログラム会場の様子



2) 第20回 関西文化の日（関西広域連合・関西元気文化圏推進協議会との共催）

関西文化の日は、2022年11月19日・20日を中心日として、関西2府8県4政令市の域内にある美術館・博物館などの文化施設の入館料（原則として常設展）を無料とする取り組みである。

コロナ禍の中での実施となったが、2022年度の参加施設数は、昨年度の403施設から若干増加し、408施設（新規参加14施設）。総入場者数は約17万4千人、累計入場者数は約672万人となった。実施に当たっては、ポスター約2,100枚、リーフレット約58,000枚を、文化施設、鉄道主要駅、高速道路サービスエリアなどで配布・掲出した。また、プレスリリースにより、テレビ・新聞・情報誌・広報誌・マスコミ等のホームページ掲載などでの情報発信が行われた。

なお、「関西文化の日」等に参加の文化施設の情報は、関西の芸術文化情報発信サイト Web サイト「関西文化.com」(<http://www.kansai-bunka.com/>)にて通年で公開している。



3) 関西元気文化圏賞

関西元気文化圏賞は、その年に文化・芸術活動やスポーツ等を通じて「関西から日本を明るく元気にすること」に貢献した幅広いジャンルの人物・団体を表彰する事業であり、2003年から実施し20回目を迎えた。

2022年 関西元気文化圏賞は、2023年1月25日、大阪市にての贈呈式を行い（文化庁芸術祭賞と共同表彰）、関西元気文化圏推進協議会松本正義会長（関西観光本部理事長）から受賞者へ賞状およびトロフィーが授与された。

■ 各賞受賞者（敬称略）

大賞	大阪中之島美術館
特別賞	大阪・関西万博公式キャラクター「ミャクミャク」／山下 浩平 公益財団法人鷹山保存会 生駒高等学校野球部・天理高等学校硬式野球部 オリックス・バファローズ
ニューパワー賞	桂 二葉（上方噺家） 今村 翔吾（小説家・書店経営者）



4) 日本政府観光局現地職員対象としたオンラインセミナー

JNTOの依頼により、2023年3月10日、JNTOの海外職員向けに関西に関するオンラインセミナーを実施した。

セミナーでは、関西の基本情報、広域観光ルート“THE EXCITING KANSAI”、関西の特別な魅力を紹介する“Exclusive Expedition”、関西の20コンテンツを2025年大阪・関西万博の開催とともに紹介した（JNTOの海外現地12事務所及び本部から27名の職員の方が参加）。終了後には利用したプレゼンテーション資料をJNTOの全海外事務所に共有した。



JNTOは、海外に多くの現地事務所を展開していることから、現地からの旅行会社・航空会社・メディアの視察旅行を企画するうえで密接な連携が有効であり、今後も現地職員に向けた情報共有を強化していく。

7. 管理運営活動（理事会・評議員会・運営会議）

1) 理事会

- 第1回臨時理事会(書面会議) 2022年4月1日(金)
第1号議案：臨時評議員会の開催及び目的である事項の承認の件
- 第1回理事会 2022年5月23日(月)
第1号議案：2021年度事業報告書(案)の承認の件
第2号議案：2021年度計算書類等(案)の承認の件
第3号議案：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等(案)の承認の件
第4号議案：役員等賠償責任保険契約継続に関する承認の件
- 第2回臨時理事会(書面会議) 2022年6月21日(火)
第1号議案：理事長の選定の件
第2号議案：副理事長の選定の件
第3号議案：事務局長の選定の件
- 第3回臨時理事会(書面会議) 2023年1月17日(火)
第1号議案：臨時評議員会の開催及び目的である事項の承認の件
- 第4回臨時理事会(書面会議) 2023年2月24日(金)
第1号議案：副理事長の選定の件
- 第2回理事会 2023年3月30日(木)
第1号議案：2023年度事業計画書(案)の承認の件
第2号議案：2023年度収支予算書(案)の承認の件

2) 評議員会

- 第1回臨時評議員会(書面会議) 2022年4月1日(金)
第1号議案：理事退任に伴う理事候補者の選任(案)の件
- 第1回評議員会 2022年6月21日(火)
第1号議案：2021年度計算書類等(案)の承認の件
第2号議案：理事及び監事候補者の選任(案)の件
- 第2回臨時評議員会(書面会議) 2023年2月6日(月)
第1号議案：理事退任に伴う理事候補者の選任(案)の件

3) 運営会議

- 第1回 2022年5月16日(月) オンライン会議
- 第2回 2023年3月16日(木) オンライン会議

8. 会員・構成団体・オブザーバー関係（2023年3月31日現在）

1) 会員

種別	会員数	備考
特別会員	35	前年同日比較 +2、+6.1%
賛助会員	220	前年同日比較 +11、+5.3%
計	255	前年同日比較 +13、+5.4%

2) 構成団体

種別	団体数	備考
自治体	14	関西広域連合（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、京都市、大阪市、堺市、神戸市）、福井県、三重県
経済団体	16	関西経済連合会、関西経済同友会、京都経済同友会、神戸経済同友会、京都商工会議所、大阪商工会議所、神戸商工会議所、堺商工会議所、京都府商工会議所連合会、大阪府商工会議所連合会、兵庫県商工会議所連合会、滋賀県商工会議所連合会、奈良県商工会議所連合会、和歌山県商工会議所連合会、鳥取県商工会議所連合会、徳島県商工会議所
業界団体・事業者	3	日本旅行業協会関西支部、日本観光振興協会関西支部、関西エアポート株式会社
観光推進団体	12	びわこビジターズビューロー、京都府観光連盟、大阪観光局、ひょうご観光本部、奈良県ビジターズビューロー、和歌山県観光連盟、鳥取県観光連盟、徳島県観光協会、福井県観光連盟、三重県観光連盟、京都市観光協会、京都文化交流コンベンション
その他の官民連携団体	2	歴史街道推進協議会、関西・大阪21世紀協会
計	47	

3) オブザーバー

種別	団体数	備考
省庁	9	近畿総合通信局、外務省大阪分室、近畿財務局、近畿農政局、近畿経済産業局、近畿地方整備局、近畿運輸局、近畿地方環境事務所、文化庁地域文化創生本部
独立行政法人	2	日本貿易振興機構大阪本部、中小企業基盤整備機構近畿本部
計	11	

以 上

2 0 2 2 年度

計 算 書 類 等

自 2 0 2 2 年 4 月 1 日

至 2 0 2 3 年 3 月 3 1 日

一般財団法人関西観光本部

目次

I	貸借対照表	35
II	正味財産増減計算書	36
	正味財産増減計算書	
	正味財産増減計算書内訳書	
III	計算書類等に対する注記	40
IV	附属明細書	42

貸借対照表
2023 年 3 月 31 日現在

[単位：円]

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
流動資産			
現金預金	65,420,639	70,816,824	▲ 5,396,185
未収会費	0	30,000	▲ 30,000
未収法人税等	0	263,300	▲ 263,300
未収金	69,506,884	102,715,751	▲ 33,208,867
未収収益	139,498	166,230	▲ 26,732
前払金	1,451,274	1,592,844	▲ 141,570
立替金	512,384	382,076	130,308
流動資産合計	137,030,679	175,967,025	▲ 38,936,346
固定資産			
その他固定資産			
建物	4	48,111	▲ 48,107
什器備品	344,072	568,635	▲ 224,563
ソフトウェア	202,822	268,602	▲ 65,780
敷金	223,980	223,980	0
保証金	2,200,000	2,200,000	0
投資有価証券	138,775,000	192,439,000	▲ 53,664,000
固定資産合計	141,745,878	195,748,328	▲ 54,002,450
資産合計	278,776,557	371,715,353	▲ 92,938,796
II 負債の部			
流動負債			
未払金	12,963,879	50,835,474	▲ 37,871,595
未払費用	862,050	818,300	43,750
前受金	1,600,000	10,720,000	▲ 9,120,000
預り金	3,573	0	3,573
未払法人税等	454,800	35,000	419,800
未払消費税等	1,116,100	645,300	470,800
流動負債合計	17,000,402	63,054,074	▲ 46,053,672
負債合計	17,000,402	63,054,074	▲ 46,053,672
III 正味財産の部			
指定正味財産	4,404,180	0	4,404,180
一般正味財産	257,371,975	308,661,279	▲ 51,289,304
正味財産合計	261,776,155	308,661,279	▲ 46,885,124
負債及び正味財産合計	278,776,557	371,715,353	▲ 92,938,796

正味財産増減計算書

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

[単位：円]

科 目	当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①受取会費	32,485,000	33,111,664	▲ 626,664
特別会員受取会費	21,500,000	20,500,000	1,000,000
賛助会員受取会費	10,985,000	12,611,664	▲ 1,626,664
②事業収益	11,621,957	19,815,901	▲ 8,193,944
収益事業収益	11,621,957	19,815,901	▲ 8,193,944
③受取補助金等	63,043,586	76,862,949	▲ 13,819,363
受取国庫補助金	63,043,586	76,862,949	▲ 13,819,363
④受取負担金	94,912,780	110,666,298	▲ 15,753,518
受取負担金	94,912,780	110,666,298	▲ 15,753,518
⑤受取寄付金	0	700,000	▲ 700,000
受取寄付金	0	700,000	▲ 700,000
⑥雑収益	1,293,482	1,391,107	▲ 97,625
受取利息	775,543	776,799	▲ 1,256
雑収益	517,939	614,308	▲ 96,369
経常収益計	203,356,805	242,547,919	▲ 39,191,114
(2) 経常費用			
①事業費	232,377,721	303,207,212	▲ 70,829,491
給料手当	23,785,671	26,654,769	▲ 2,869,098
法定福利費	6,863,499	7,270,017	▲ 406,518
福利厚生費	208,428	98,071	110,357
会議費	8,136,231	2,616,195	5,520,036
旅費交通費	9,255,845	4,343,018	4,912,827
通信運搬費	2,418,600	2,749,816	▲ 331,216
図書費	70,315	72,713	▲ 2,398
減価償却費	229,457	941,595	▲ 712,138
消耗什器備品費	0	11,930	▲ 11,930
消耗品費	231,375	229,184	2,191
印刷製本費	4,136,902	4,057,494	79,408
光熱水料費	467,417	369,469	97,948
賃借料	13,203,639	13,789,502	▲ 585,863
保険料	48,210	700	47,510
諸謝金	267,288	1,224,148	▲ 956,860
租税公課	316,550	406,780	▲ 90,230
支払負担金	300,000	300,000	0
支払会費	55,000	330,725	▲ 275,725
広報費	2,411,104	4,669,389	▲ 2,258,285
委託費	159,314,486	232,301,657	▲ 72,987,171
雑費	657,704	770,040	▲ 112,336
②管理費	14,676,094	12,592,546	2,083,548
給料手当	2,887,999	2,816,593	71,406

[単位：円]

科 目	当年度	前年度	増減
法定福利費	825,587	831,602	▲ 6,015
福利厚生費	48,577	8,107	40,470
会議費	354,613	0	354,613
旅費交通費	414,462	207,190	207,272
通信運搬費	178,425	264,435	▲ 86,010
図書費	16,385	55,387	▲ 39,002
減価償却費	108,991	182,335	▲ 73,344
消耗什器備品費	945,000	2,590	942,410
消耗品費	43,830	37,516	6,314
印刷製本費	232,317	223,519	8,798
光熱水料費	108,929	80,224	28,705
賃借料	3,129,492	3,012,082	117,410
保険料	450,000	473,430	▲ 23,430
租税公課	1,562,440	773,037	789,403
支払会費	528,600	583,600	▲ 55,000
広報費	0	0	0
委託費	2,745,278	2,912,662	▲ 167,384
雑費	95,169	128,237	▲ 33,068
経常費用計	247,053,815	315,799,758	▲ 68,745,943
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 43,697,010	▲ 73,251,839	29,554,829
投資有価証券評価損益等	▲ 7,093,492	▲ 2,571,492	▲ 4,522,000
投資有価証券評価損益	▲ 5,345,956	▲ 2,571,492	▲ 2,774,464
投資有価証券売却損益	▲ 1,747,536	0	▲ 1,747,536
評価損益等計	▲ 7,093,492	▲ 2,571,492	▲ 4,522,000
当期経常増減額	▲ 50,790,502	▲ 75,823,331	25,032,829
2.経常外増減の部			
(1)経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2)経常外費用			
固定資産除却損	44,002	2,585	41,417
什器備品除却損	44,002	2,585	41,417
経常外費用計	44,002	2,585	41,417
当期経常外増減額	▲ 44,002	▲ 2,585	▲ 41,417
税引前当期一般正味財産増減額	▲ 50,834,504	▲ 75,825,916	24,991,412
法人税、住民税及び事業税	454,800	215,200	239,600
当期一般正味財産増減額	▲ 51,289,304	▲ 76,041,116	24,751,812
一般正味財産期首残高	308,661,279	384,702,395	▲ 76,041,116
一般正味財産期末残高	257,371,975	308,661,279	▲ 51,289,304
II 指定正味財産増減の部			
受取負担金	5,000,000	0	5,000,000
受取負担金	5,000,000	0	5,000,000
一般正味財産への振替額	▲ 595,820	0	▲ 595,820
一般正味財産への振替額	▲ 595,820	0	▲ 595,820
当期指定正味財産増減額	4,404,180	0	4,404,180
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	4,404,180	0	4,404,180
III 正味財産期末残高	261,776,155	308,661,279	▲ 46,885,124

正味財産増減計算書内訳表

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

[単位：円]

科 目	公益事業等会計	その他事業会計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
① 受取会費	0	0	32,485,000	32,485,000
特別会員受取会費	0	0	21,500,000	21,500,000
賛助会員受取会費	0	0	10,985,000	10,985,000
② 事業収益	0	11,621,957	0	11,621,957
収益事業収益	0	11,621,957	0	11,621,957
③ 受取補助金等	63,043,586	0	0	63,043,586
受取国庫補助金	63,043,586	0	0	63,043,586
④ 受取負担金	44,602,780	0	50,310,000	94,912,780
受取負担金	44,602,780	0	50,310,000	94,912,780
⑤ 受取寄付金	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0
⑥ 雑収益	291,079	0	1,002,403	1,293,482
受取利息	0	0	775,543	775,543
雑収益	291,079	0	226,860	517,939
経常収益計	107,937,445	11,621,957	83,797,403	203,356,805
(2) 経常費用				
① 事業費	222,419,790	9,957,931	0	232,377,721
給料手当	23,739,406	46,265	0	23,785,671
法定福利費	6,841,150	22,349	0	6,863,499
福利厚生費	205,508	2,920	0	208,428
会議費	7,979,865	156,366	0	8,136,231
旅費交通費	8,490,200	765,645	0	9,255,845
通信運搬費	2,408,282	10,318	0	2,418,600
図書費	69,189	1,126	0	70,315
減価償却費	226,485	2,972	0	229,457
消耗什器備品費	0	0	0	0
消耗品費	228,507	2,868	0	231,375
印刷製本費	4,125,012	11,890	0	4,136,902
光熱水料費	459,925	7,492	0	467,417
賃借料	12,994,108	209,531	0	13,203,639
保険料	44,090	4,120	0	48,210
諸謝金	267,288	0	0	267,288
租税公課	314,757	1,793	0	316,550
支払負担金	300,000	0	0	300,000
支払会費	0	55,000	0	55,000
広報費	2,411,104	0	0	2,411,104
委託費	150,680,722	8,633,764	0	159,314,486
雑費	634,192	23,512	0	657,704
② 管理費	0	0	14,676,094	14,676,094
給料手当	0	0	2,887,999	2,887,999
法定福利費	0	0	825,587	825,587
福利厚生費	0	0	48,577	48,577
会議費	0	0	354,613	354,613
旅費交通費	0	0	414,462	414,462
通信運搬費	0	0	178,425	178,425
図書費	0	0	16,385	16,385
減価償却費	0	0	108,991	108,991

[単位：円]

科 目	公益事業等会計	その他事業会計	法人会計	合計
消耗什器備品費	0	0	945,000	945,000
消耗品費	0	0	43,830	43,830
印刷製本費	0	0	232,317	232,317
光熱水料費	0	0	108,929	108,929
賃借料	0	0	3,129,492	3,129,492
保険料	0	0	450,000	450,000
租税公課	0	0	1,562,440	1,562,440
支払会費	0	0	528,600	528,600
広報費	0	0	0	0
委託費	0	0	2,745,278	2,745,278
雑費	0	0	95,169	95,169
経常費用計	222,419,790	9,957,931	14,676,094	247,053,815
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 114,482,345	1,664,026	69,121,309	▲ 43,697,010
投資有価証券評価損益等	0	0	▲ 7,093,492	▲ 7,093,492
投資有価証券評価損益	0	0	▲ 5,345,956	▲ 5,345,956
投資有価証券売却損益	0	0	▲ 1,747,536	▲ 1,747,536
評価損益等計	0	0	▲ 7,093,492	▲ 7,093,492
当期経常増減額	▲ 114,482,345	1,664,026	62,027,817	▲ 50,790,502
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
固定資産除却損	0	0	44,002	44,002
什器備品除却損	0	0	44,002	44,002
経常外費用計	0	0	44,002	44,002
当期経常外増減額	0	0	▲ 44,002	▲ 44,002
税引前当期一般正味財産増減額	▲ 114,482,345	1,664,026	61,983,815	▲ 50,834,504
法人税、住民税及び事業税	0	454,800	0	454,800
当期一般正味財産増減額	▲ 114,482,345	1,209,226	61,983,815	▲ 51,289,304
一般正味財産期首残高	▲ 1,469,454,502	10,106,132	1,768,009,649	308,661,279
一般正味財産期末残高	▲ 1,583,936,847	11,315,358	1,829,993,464	257,371,975
II 指定正味財産増減の部				
受取負担金	5,000,000	0	0	5,000,000
受取負担金	5,000,000	0	0	5,000,000
一般正味財産への振替額	▲ 595,820	0	0	▲ 595,820
一般正味財産への振替額	▲ 595,820	0	0	▲ 595,820
当期指定正味財産増減額	4,404,180	0	0	4,404,180
指定正味財産期首残高	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	4,404,180	0	0	4,404,180
III 正味財産期末残高	▲ 1,579,532,667	11,315,358	1,829,993,464	261,776,155

計算書類等に対する注記

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」(平成 20 年 4 月 11 日 令和 2 年 5 月 15 日改正 内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

・時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)を採用している。

・時価のないもの

移動平均法による原価法を採用している。

(2) 固定資産の減価償却の方法

・有形固定資産

定率法を採用している。但し、平成 28 年 4 月 1 日以降に取得した建物付属設備・構築物については定額法を採用する。

・無形固定資産

定額法を採用している。

(3) 消費税等の会計処理

税込方式によっている。

2. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

[単位：円]

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	2,896,650	2,896,646	4
什 器 備 品	4,398,599	4,054,527	344,072
ソ フ ト ウ ェ ア	2,278,380	2,075,558	202,822
合 計	9,573,629	9,026,731	546,898

3. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

[単位：円]

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
令和4年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金 (プラスワンナイト事業推進のための関西全域のルート強化)	国土交通大臣	0	18,468,211	18,468,211	0	—
令和4年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金 (通訳案内士によるコアなニーズに対応する高額消費者層向けツアー造成促進事業)	国土交通大臣	0	2,400,000	2,400,000	0	—
令和4年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金 (万博を見据えた"KANSAI"の食のツーリズム化促進事業)	国土交通大臣	0	5,186,500	5,186,500	0	—
令和4年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金 (「The Origin of Japan, KANSAI」関西のサステナブル・ツーリズム調査・戦略策定事業)	国土交通大臣	0	4,878,500	4,878,500	0	—
令和4年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金 (TKGの行動履歴分析による仮説構築および当本部保有データを活用した仮説検証調査の結果を踏まえた戦略策定)	国土交通大臣	0	9,993,575	9,993,575	0	—
令和4年度訪日外国人旅行者周遊促進事業費補助金 (関西観光地づくり支援調査事業)	国土交通大臣	0	9,996,800	9,996,800	0	—
令和4年度文化芸術振興費補助金 (地域文化財総合活用推進事業)	文化庁	0	10,120,000	10,120,000	0	—
日本産酒類海外展開支援事業費補助金 (酒蔵ツーリズムにおける海外別送の普及促進による日本酒の販売確定事業)	国税庁	0	2,000,000	2,000,000	0	—
合 計		0	63,043,586	63,043,586	0	

4. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次の通りである。

[単位：円]

内 容	金 額
経常収益への振替額 事業費計上による振替額	595,820
合 計	595,820

附 属 明 細 書

2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで

1. 基本財産及び特定資産の明細

該当無し

2. 引当金の明細

該当無し

